

子育て支援で702万円もお得！

子育て支援充実 若者定住が促進

都内でありながら、都心は過密、郊外は過疎という両極端な人口現実問題の悩みを抱える東京都奥多摩町の人口のピークは昭和31年に1万5613人、平成27年は5511人で、この60年間で1万102人、65%の減の実態です。

奥多摩町は人口減少問題が最大の課題。子育て支援や若者定住促進などの施策は国内トップクラスの充実ぶりで、全国の市町村から注目を集めています。

支援を受けている住民から、「子育て支援が充実しているので奥多摩町に住んで良かった」という声を直接聴くことができました。

奥多摩町の子育て支援施策などの主な内容は、下の表のとおりです。

子育て支援【キャッチフレーズ：奥多摩町「子育て支援で702万円もお得！」】

- 乳幼児 保育料の全額助成、医療費の全額助成
- 小中学生 給食費・通学費・医療費の全額助成、中学生の制服代の助成
交流事業でオーストラリアや神津島へ派遣
- 高校生 通学費・医療費の全額助成、通学支援（ガソリン代・タクシー代一部助成）
- その他 学童保育料の助成、インフルエンザ予防接種一部助成
不妊検査や不妊症治療等の一部助成、奥多摩温泉「もえぎの湯」優待水道料金の一部助成、ごみ袋購入費の助成

若者定住促進支援

- 出会いの場支援 ふれ愛センター開設
(登録→イベント参加→親交を深める→結婚→支援制度を活用して定住)
- 若者定住の支援 奥多摩町に新築で260万円の助成
住宅の購入・改築・増築・リフォームで最大200万円の助成
町外から移住し15年間以上継続定住の場合、無償で住宅を譲与
宅地分譲地の安価購入
- 若者定住住宅 若者世代の定住応援のため安価での貸し出し
若者用空き家バンクの活用推進
所有者が町に寄付で200万円、若者用空き家バンク登録で50万円助成

葛巻町産材を 床材に活用

JR浜松町駅近くに立地する港区スポーツセンター。幅広い年齢の方が利用するトレーニングパークやプールを中心に、観覧席のある広く様々な競技に適したアリーナや多数の競技場と武道場が完備された8階建ての総合室内競技施設です。

26年12月にオープンした巨大施設で、年間利用者数は約85万人。この施設のアリーナの床材として、町産材（国際森林認証

証FSC）の檜フローリングが、武道場の床材に赤松集成材がそれぞれ使用されています。

近年、外国産材の輸入増加や林業の担い手不足などから手入れが行き届かず荒廃が進んでいる森林も多く、森林整備の促進が求められています。

港区では、森を持つ自治体と「国産材等の活用促進協定」を結び森林資源の保全と地球温暖化対策に取り組んでいます。その一環として全国からの国産材を活用して施設を整備したものです。

葛巻町産材の檜の木が床材に使用されたアリーナ

輝くふるさと常任委員会 研修レポート IN 東京



奥多摩町

「巨樹と清流のまち」東京都奥多摩町は、都心から電車を乗り継ぎ約2時間。山梨県隣の東京の一番奥地の町。人口5500人、高齢化率47%、年間出生数15人、死亡者数195人の過疎地。面積は226平方メートルで都内一、その94%が山林。東京都最高峰の雲取山(2017m)を頂点に四方を山々に囲まれた緑豊かで多摩川の源流となっている地域です。

東京と言えば、人口過密で騒がしいイメージを描きますが、奥多摩町は、険しい山々が屏風のように立ち並び、峡谷沿いに、わずかに開けた土地に町並みが形成され、ひっそり静まり返ったひなびた農村光景が広がる町です。

木質バイオマス 資源を有効活用

奥多摩町は、かつて竹下総理が提唱した「ふるさと創生1億円」事業で温泉掘削に成功。奥多摩温泉「もえぎの湯」を建設整備。「もえぎの湯」では、これまで灯油ボイラーで加温していたものを地元の森林資源の有効活用と地球温暖化防止に役立てるため、木質チップを燃料とする木質バイオマスボイラーを導入し、24年3月から稼働。

既存の灯油ボイラーは、年間約9万5千kgの灯油消費と約236トンの二酸化炭素を排出。パーク・粉砕チップを混焼する木質バイオマスボイラーに転換したことで年間灯油使用量が1万1千kgとなり、二酸化炭素が約201トンの削減です。チップ使用料は年間約1200立方mです。

また、チップサイロ（容量19・4立方m）には24トンアームローラー車のダンプカーで搬送され、補給は3日に1回程度。

温泉もえぎの湯は、地元民、登山客など多くの方々から利用され、町内で数少ない交流や社交の場となっています。

この事業のねらいは、町内で間伐された未利用で放置されているスギやヒノキを対象に、1立方m6千円（現金3千円と地域通貨3千円相当）で買い取り、森林の整備・保全促進と地域通貨を流通させ、地域商店の経済活性化に役立つことを併せ持っています。



奥多摩町 イメージキャラクター "わさびー"

奥多摩町の取り組みを学ぶ

輝くふるさと常任委員会は、2月6日から8日、鈴木町長も同行し、東京都の奥多摩町、港区スポーツセンターを視察。本町が重点的に進めてきた木質バイオマス事業、子育て支援や若者定住をさらに充実するため、先進的な取り組みを行っている事例を視察し、今後の町づくりの参考のため研修しました。



奥多摩温泉「もえぎの湯」木質バイオマスボイラー